

2013 / 春 / No.91

らじ  
来ぶらり



特集

# 新入生諸君！ オススメの本は これだ！

館長コラム

## 自分のコトバで考えるということ

図書館長 平野 浩

自分のコトバで考える、と言われたことがありませんか。大学に入学すると、そんなようなことを言われる機会もさらに増えるでしょう。しかし、そもそも自分のコトバで考えるとはどのようなことなのでしょうか。私たちはしばしば、借り物でない自分のコトバで考えるということ、人のコトバに左右されずに考えること、そこから更に、人のコトバを聞かずに考えることだと思ってしまう。大いなる勘違いです。大抵のことは、すでに誰かがどこかで言っています。そうした誰かがどこかで言ったことをイヤというほど聞いたうえで、「それでも何かまだ言われ足りてないものがある」というもどかしさを感じた時、それが何であるのかを探ること、これが自分のコトバで考えるということです。どのような分野でも、独創的な仕事をした人たちの多くが、最初は誰かがどこかで言ったことを徹底的に聞くことから始めています。それによって、その分野の宇宙がどのようになっているかのイメージを持ち、その中のどこに「言われ足りていない」空白地帯や「言われ過ぎて意味不明になった」ブラックホールがあるかを感じ取るのです。宇宙の入り口、図書館によろこそ。



# 新入生諸君!! オススメの“本”はこれだ!

先輩たちが新入生向けに「オススメの本」を紹介してくれました。どの紹介文からも、熱い思いが伝わってきます! ここで紹介されている資料のうち本学で所蔵している資料は、紹介文と一緒に大学図書館1階に展示予定です。実際の本も手に取ってみてください。



**南極点のピアピア動画**  
野尻抱介著  
早川書房 2012

新入生諸君、オススメの本はこれだ!  
タイトル:『南極点のピアピア動画』  
(著者:野尻抱介)

科学が無味乾燥で素気無いものと  
思っている人は、勉強の力を間違えている!  
科学はじつは月が熱く輝く学問は輝く。  
この本はそんな「ムネ」が科学に燃ゆるSF小説である。「ほにゃん SF小説は日色い奴だわ」  
いやいや、そう言えるに句に取ってみたい。  
夢を現実にする科学の楽しさ、面白さ。  
「わんわん」に燃ゆる本だと思え。  
これから大学で勉強するって楽しめよう!! ...せぶん

所属 教 学科・研究科 4年 (男・女)



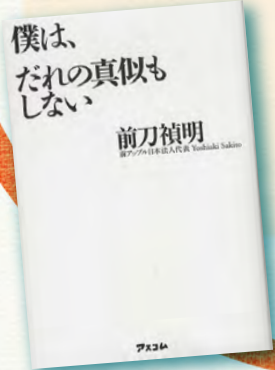
**法哲学入門**  
長尾龍一著 講談社 2007  
【大学図・1F開架 081.2/61/1801】  
法学部法学科4年・男  
読みやすく、面白い。法学科の人は是非。



**人間の土地 改版**  
サン=テグジュペリ著 堀口大學訳 新潮社 1998  
【大学図・1F開架 Shincho/サ1/2】  
大学院人文科学研究科 D3・男  
サン=テグジュペリという「星の王子さま」が有名なが、この本は、彼の本業である飛行士としての実体験からの、いわば「悟り」を描く。エッセイとも小説ともいえる文体によって、彼がぶつからざるをえなかった人間の問題、その本質を飛行機乗りという空の上の孤独な、しかし世界の豊かさを目の当たりにする職業から捉えようとする。友人やあるいは自分と無関係の他人とのつながり、さらには世界とのつながり、自分の責任など、今後の人生のためにくみ取れることは多いのではない。



**数学セミナー 2012年4月号**  
日本評論社【410.5/1/P】  
理学部数学科4年・男  
理学部の皆へ。  
合格おめでとう。ようこそ学習院大学へ。早速だが、君たちは明日から「高校数学と大学数学とのギャップ」に悩む。(確定事項☆)  
雑誌「数学セミナー」の2012年4月号に特集「高校数学と大学数学の架け橋」という記事がある。これを読んで、少しでもムダに悩む時間を減らして欲しい。  
数学科図書室(南4号館3階)にファイリングされているから、司書のお姉さん(←ここ大切)に「これ、どこへ?」と聞いてみよう。



**僕は、だれの真似もしない**  
前刀禎明著 アスコム 2012  
【大学図・1F開架 Best/2012】  
大学院自然科学研究科1年・男  
iPhone使っていますよね。カッコいい、持っていて楽しいなど評価はいろいろ。もし、なぜAppleがこんな製品を開発できたのかと思ったら本書を。「使いやすい」ということを徹底的に考えたわけではありません。今の不況脱出のヒントも得られます。



**夜と霧 新版**  
ヴィクトール・E・フランクル著 池田香代子訳  
みすず書房 2002【大学図・1F開架 944/42a】  
オーストリアのユダヤ人精神科医フランクルが、ナチス強制収容所での体験を基に記した本です。  
ピンポイントで記述にあって、全ての人間は自分の置かれている現実に対し、振り舞うか、闘うか、あるいは静かに最後の日まで生きていくか、と語る。  
フランクルの言葉に大いに感銘を受けました。  
これはこの本からだけ、運命や愛の存在に所及する。  
ここから、そして今後、この本に救われたい。機会があれば、必ず大学図書館に読んでほしい!

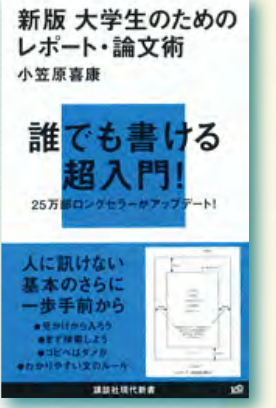
所属 哲 学科・研究科 1年 (男・女)



**解析入門1**  
杉浦光夫著  
東京大学出版会 1980  
【大学図・書庫 414/200/1】  
理学部数学科3年・男  
数学科1年生は読んでおくといいと思います。微積の基礎はこれで極められます! 学年が上がっても使い続けられるので1冊買っておくとさらにいいと思います。



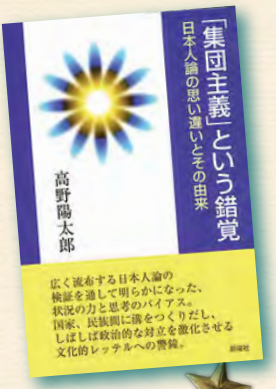
**経済学批判**  
カール・マルクス著  
岩波書店 1956  
【大学図・書庫 081.2/33A/145】  
大学院人文科学研究科 M2・男



**大学生のためのレポート・論文術 新版**  
小笠原喜康著 講談社 2009  
【大学図・1F開架 816.5A/O22d】  
新入生諸君、オススメの本はこれだ!  
タイトル:『大学生のためのレポート・論文術』  
(著者:小笠原喜康)  
「大学で初めてレポートの課題が出たけど、イマイチどう書いてよいかわからない」そんな新入生さんにオススメです。  
資料収集の段階から仕上げの形で、とつきやすい文体でわかりやすく提示されています。私も初めての課題レポートに取り組みの際参考にしたのですが、「重要事項書誌事項の抜き書き方法」、「つい陥りがちな文体への注意」など、大変役に立ちました!  
そして何より、新書で持ち歩きやすく、読める点が良い。初學者としては、他の言語もバリエーションの参考文献の山にアワアワしているはずですからね!  
私は旧版にお世話になりましたが、今は情報環境の変化に対応した新版が出ていますので、ぜひ是非チェックしてみてください。  
良き学びの第1歩を踏み出せますように!  
所属 学科・研究科 年 (男・女)



**現代政治理論 新版**  
W. キムリッカ著 日本経済評論社 2005  
【大学図・1F開架 310.1/509a】  
文学部哲学科2年・男  
多文化主義やシティズンシップ理論の研究で知られる一線の政治哲学者による政治哲学の入門書。正義論を中心に現代政治哲学の主要な立場がバランスよくまとめられており、倫理学の概説書としての評価も高い。政治学科・哲学科の新入生はもちろん、広く社会科学を専攻する学生すべてにおすすめしたい。



**「集団主義」という錯覚: 日本人論の思い違いとその由来**  
高野陽太郎著 新曜社 2008  
【大学図・1F開架 301.3/406】  
文学部心理学科4年・男  
2008年に刊行された日本人が「個人より集団を優先して行動する」傾向が科学的・統計的に分析すると、誤りであることを明らかにした一冊である。特に心理学科の1年生(2年生以上も含む)に一読して頂きたい。世間まかり通る「通説」に対する疑問を見出す感性、具体的・実証的な手段で物事を分析・判断する姿勢は、学問を究めるにあたって重要なことである。  
この本は非常に読みやすく、手頃に気軽に心理学の世界や研究方法を知ることができる。「通説」をいかにして打破していくかについてのプロセスは、心理学科以外の学生にも有益な知見になることでしょう。

表彰!!

# 図書館男子! 図書館女子!

ISSN 2186-6724

学部1年生のときから図書館をよく利用しているヘビーユーザーのお二人を「図書館男子」「図書館女子」として勝手に認定させていただきました!

日本語日本文学専攻  
博士前期2年の  
院生さん!

## Q. 来館頻度は?

週4回程度です。院生室と併用しています。図書館では主に2階で研究(課題や論文執筆)を、1階では教員採用に向けて日本史関係の知識を補充しておきたいのでその勉強をしたり、気晴らしに本を読んだりなどしています。学部生の頃は3階のパソコンもよく利用しましたが、院生室のパソコンを主に利用するようになったことで最近はおもっぱら1、2階を使用することが多いです。

## Q. おすすめの図書館の使い方は? お気に入りの場所は?

やはり2階の雑誌室ですね。「歴史学研究」や「史学雑誌」といった学術雑誌をよく読みます。リラックスした雰囲気をとても気に入っています。

## Q. お気に入りの本は?

う〜ん…以前史学科教授をされていた井上勲先生の『王政復古(中公新書)』ですね。履修していた授業の参考文献として挙げられていました。歴史書は出来事を時系列に並べて一面的に述べられていることが多いのですが、この本は様々な要素を生きたものと捉えて王政復古を説明している点で、大学の研究とはこういうものなんだと感銘を与えてくれました。今でも研究に行き詰った時はこの本を紐解き、参考にしています。

史学専攻  
博士前期2年の  
深沢さん!

## Q. 来館頻度は?

週3-4回程度です。多いときは毎日来館しています。学科研究室と比べてコピー機があってコピーしやすいというのと、調べたいときにデータベース専用検索パソコンですぐ調べられるので大学図書館で研究を進めることが多いですね。

## Q. おすすめの図書館の使い方は? お気に入りの場所は?

1年生の頃は1階のベストセラーや話題の本をよく借りていました。そのうちに一般教養の授業をきっかけにして、一般書・専門書を読むようになりました。普段は、主に2階の長机を使っています。開放感があって勉強しやすいからです。集中したいときはパーテーションで仕切られている机を使います。

## Q. お気に入りの本は?

最近ですと『舟を編む』、それから『しゃげけ』シリーズも好きで読んでいます。少し専門書寄りになりますが、史学科の福井先生の授業で指定されていた教科書『歴史学入門(岩波書店)』や日文科の鈴木先生の授業で使用していた『古典詩歌入門(岩波書店)』は、読んだときに、「高校と違う!」という驚きとともに、「これが大学の世界なんだ」とこれからの学びに対する期待がふくらみました。この本がきっかけで現在の研究テーマを選んだと言えるかもしれません。



お二人、ご協力どうもありがとうございました。

## 後悔先に立たず。学べるときに思いきり学ぼう。



人に自分の本棚を見せる機会、意外とないですよね。ちょっと恥ずかしいけれど自慢したい、わたしの本棚。今回は、法学部法学科教授の大久保直樹先生にご自身の本棚を紹介いただきました。

ゼミの卒業生などと会って喋っていると、「学生時代に勉強しておけばよかった。」と言う発言を結構よく聞きます。世間一般には、学生時代にしか本当の勉強はできないと言われるのですが、そういう発言を聞いたときに私は、必ず「今からでも遅くないじゃないですか」と発破をかけるようにしています。この発破は、実は自分自身にかけている言葉でもあります。

わたくしは、弓術部法学科卒業と揶揄されるような学生生活を送っていました。色々なご縁があって研究者の道に進めましたが、研究生生活をはじめてしばらくして思ったのは「学生時代にもっと色々な勉強をしておけばよかった。」ということでした。研究者の私には、普通の社会人に比べればはるかに時間的ゆとりがありますが、それでも、未知の分野について分からないことが分かるようになるまで取り組むのは非常に難しいです。とは思いつつ、諦めずに、なるべく他の分野のことも学ぼうと苦闘している足跡が、私の書棚に並んでいる本というところになるかと思えます。

今現在学生である皆さんは、私のような後悔の程度がすこしでも少なくともすむように、学習院大学の図書館(各学部にも図書室があります)を最大限に活用してください。



専門分野外の  
ジャンルの本も  
多く並んで  
います

例えば  
こんな本も  
読めます

法学部法学科教授  
大久保直樹

## 来ぶらり No.91 2013年4月1日

学習院大学図書館 発行責任者: 平野 浩 編集委員: 瀬戸山★アントニオ★雄介・内藤☆クリスティーン☆沙織☆三  
1階貸出・返却カウンター: ☎ 03-5992-1009 内線 2397 2階レファレンスカウンター: ☎ 03-5992-9249(直通) 内線2395・2396  
☎ 03-3986-0221(代表) 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

「来ぶらり」のバックナンバーは (<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/collection/library/raiburari.html>) で公開しています。